

## NEWS RELEASE

**年下の友人がもたらす情報と発見でアンチエイジング  
積極的なコミュニケーションが女性の若々しさの源？  
～NTT アド アンチエイジングとコミュニケーションの実態調査～**

株式会社エヌ・ティ・ティ・アド(以下「NTTアド」 東京都品川区、代表取締役社長:中山哲夫)は、『アンチエイジングとコミュニケーション』の実態について調査を実施いたしました。

調査は、2008年6月3日～6日に首都圏在住の25歳～59歳の男女個人を対象に、アンチエイジングに対する意識と、コミュニケーションとアンチエイジングの関わりを把握するため、インターネットアンケート方式で行なったもので、有効回答者数は431人でした。

いつまでも若々しさを保ちたいと願うことは、いつの時代も変わらぬ人々の思いです。心と体の活性化がアンチエイジングには不可欠と考えれば、生活行動、とりわけコミュニケーションは大きな影響力を持ってきます。

NTTアドでは、これからも、現在進行形のコミュニケーションが、社会・文化・消費に与える影響について様々な視点で調査研究を続けます。

### 〈調査のまとめ〉

#### I. アンチエイジングに関する意識と生活行動

- ①アンチエイジングは、性・年代を問わず高い関心を集めている。男女とも、「外見の若々しさより、内面の若々しさへの興味が高い」という人のほうが多い結果となったが、女性は、外見派もかなり多い。
- ②回答者の8割以上が、「趣味や習い事」「話題や流行の情報を知る」「若い人との交流」「仕事」は若々しさを保つことに役立つと考えている。また、女性は、様々な生活行動を、「若々しさを保つ」とことと関連づけて捉える傾向がある一方、男性は、アンチエイジングには興味があっても、それを具体的な生活行動と結びつけては考えていない。さらに、男女とも「自分より若い人たち」とのコミュニケーションは、「年上」「同年代」とのコミュニケーションより、若々しさにつながると考えている人が多い。

#### II. アンチエイジングとしてのコミュニケーション行動

- ①男性では40代以上で6割が、女性では30代が6割、40代・50代では7割以上が、年下世代の友人がいると回答した。
- ②コミュニケーションは相手との年齢(年代)差に関わらず、「直接会って話す」ことで行うことが多く、次いで「電子メール」が利用されている。「電子掲示板」や「ブログ・SNS」の利用は年下の友人とのコミュニケーションで認められる。
- ③友人の年齢に関わらず、一緒に行動することで最も多いのは「飲食」。同年代の友人とは他に「買い物」や「旅行」などの行動を挙げる人も多いが、年上/年下の友人とは、専ら「飲食」しながらコミュニケーションを楽しむ傾向にある。
- ④年下の友人とのコミュニケーションは「興味・関心の領域が広がる」(年下の友人がいる人の52%)「新しい発見がある」(同51%)、そして「気持ちが若返る」(同38%)ことを評価する人が多く、同年代の友人との「ストレス発散」(同年代の友人がいる人の56%)とは異なる価値があるようだ。

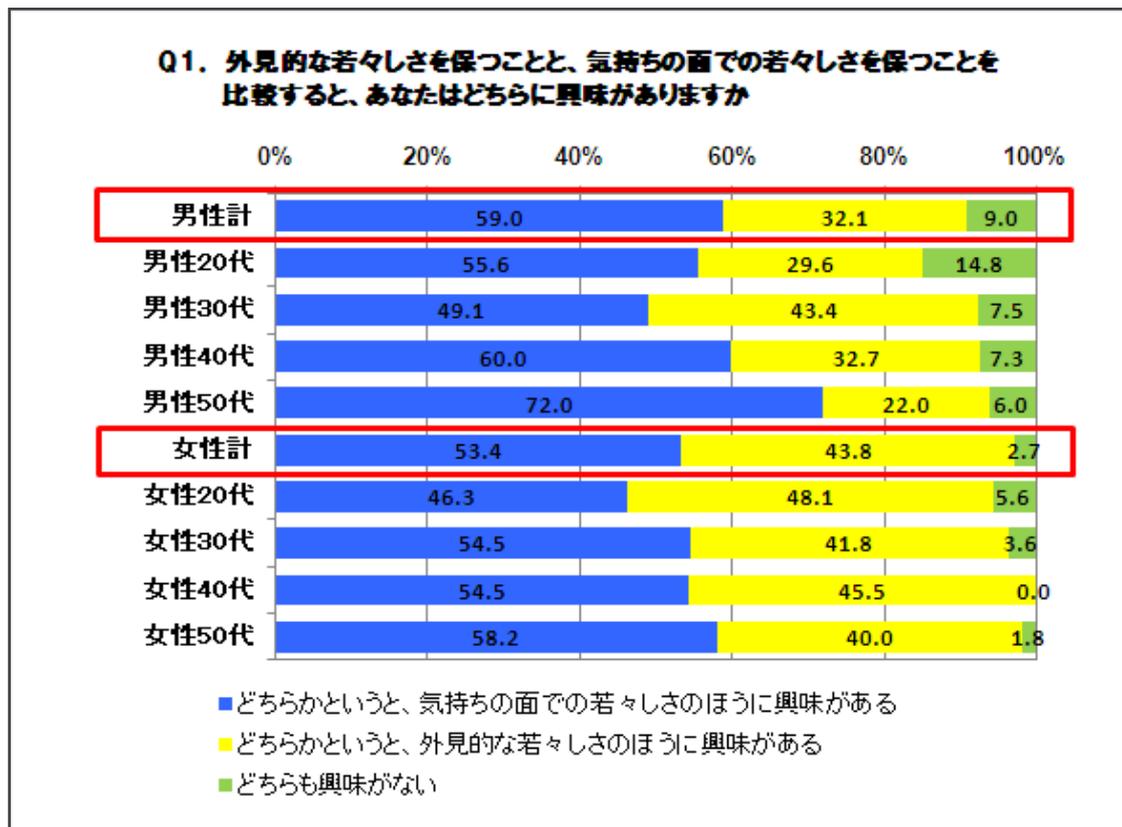
女性のほうがコミュニケーションの価値を高く評価する傾向にあり、様々な年齢の友人とコミュニケーションを行い、かつ、ポジティブに捉えていることが伺える結果となった。

<調査結果抜粋>

I. アンチエイジングに関する意識と生活行動

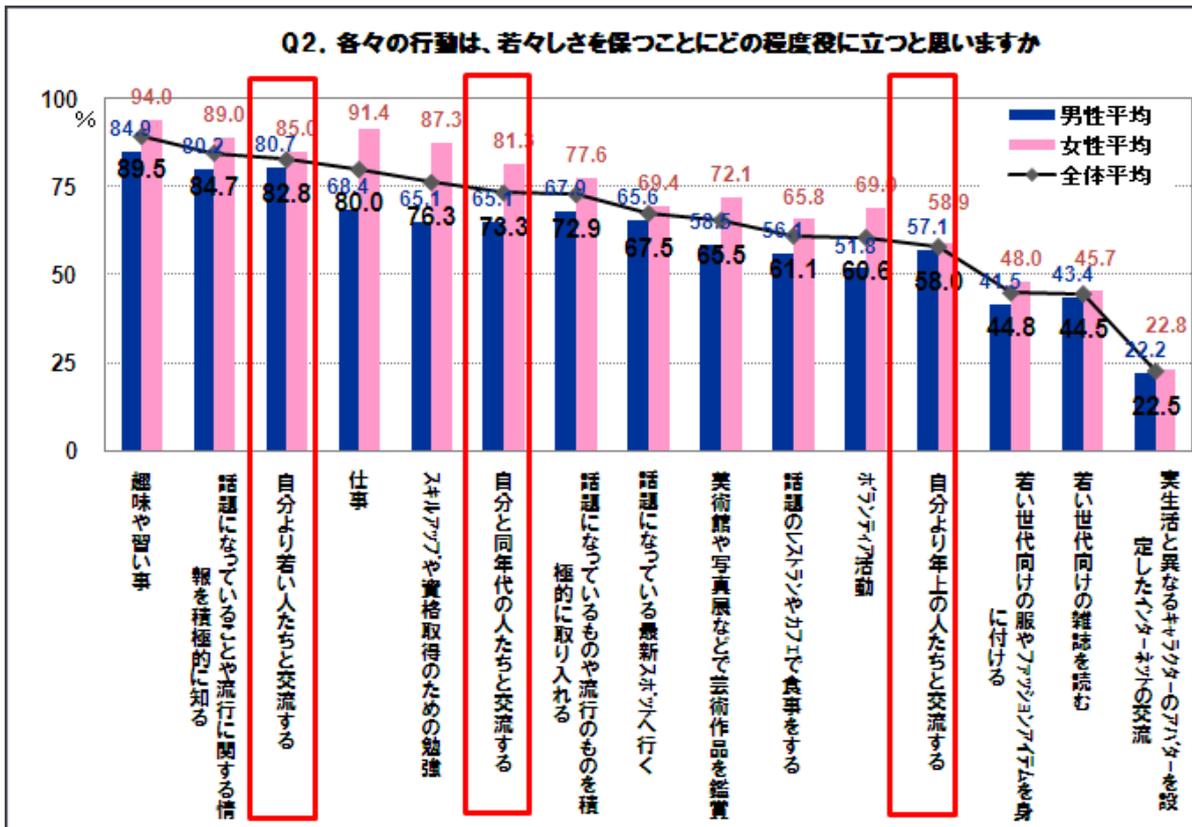
①アンチエイジングの意識

- ◎アンチエイジングへの関心は、性・年代を問わず高い。興味がないという回答は、20代男性の15%以外は、いずれの性・年代とも10%以下に留まった。
- ◎内面的な若々しさを保つこと(内面派)と、外見的に若々しさを保つこと(外見派)、どちらがより興味があるか選択してもらった結果、男女とも、内面派が外見派を上回った。但し、男性が内面派(59%)に対し外見派(32%)と、その差が27%あるのに対し、女性は内面派(53%)、外見派(44%)で両者の差は9%に留まり、“ゆれる”心情を感じさせる結果となった。



②アンチエイジングと生活行動

- ◎若々しさを保つことに役立つと思う行動について質問したところ、回答者全体で8割を超えたものは、「趣味や習い事」90%「話題や流行の情報を知る」85%「若い人との交流」83%「仕事」80%であった。
- ◎いずれの行動も、女性の回答率の方が高く、様々な生活行動を「若々しさを保つ」ことに役立つと捉えている。一方、男性は、若々しさへの興味はあるものの、具体的な生活行動には結びついていないものと思われる。
- ◎「自分より若い人たち」「同年代」「自分より年上の人たち」各々のコミュニケーションを、若々しさを保つことと結び付けて捉えているか比較してみると、男女とも「若い人たち」との交流は若々しさにつながると考えている人が多いことがわかる。



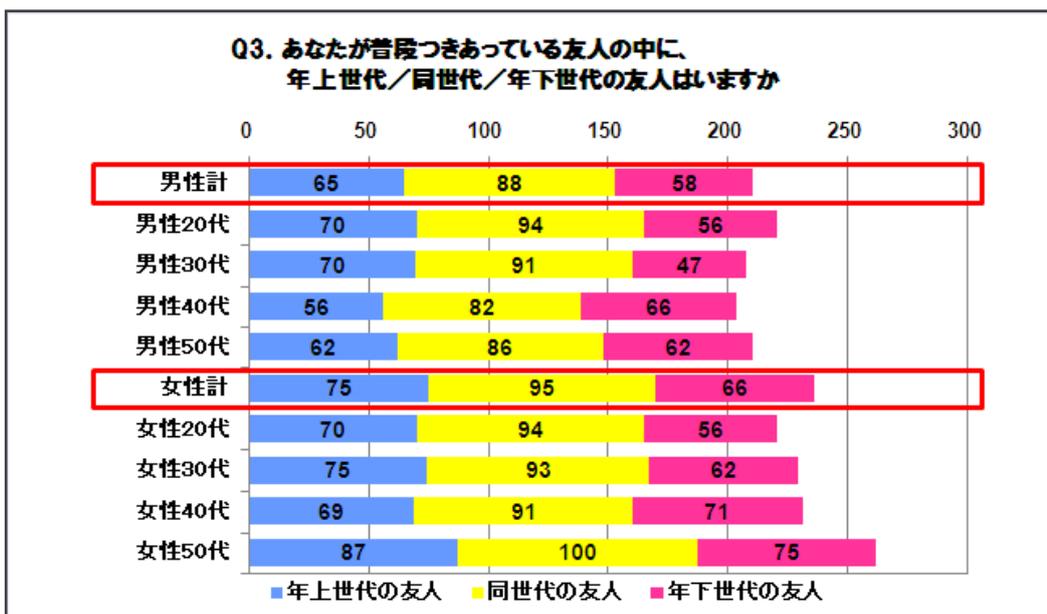
※「非常に役に立つ」/「ある程度役に立つ」/「あまり役に立たない」/「全く役に立たない」の4段階で質問し、「非常に役に立つ」+「ある程度役に立つ」の計をグラフ化

## II. アンチエイジングとしてのコミュニケーション行動

### ①年上/年下の友人の有無

◎性・年代を問わず、同年代の友人がいるという回答が最も多いが、年下世代の友人の有無についてみると、男性では40代以上で回答者の6割が、女性では30代で6割、40代・50代では7割以上が、友人がいると回答している。

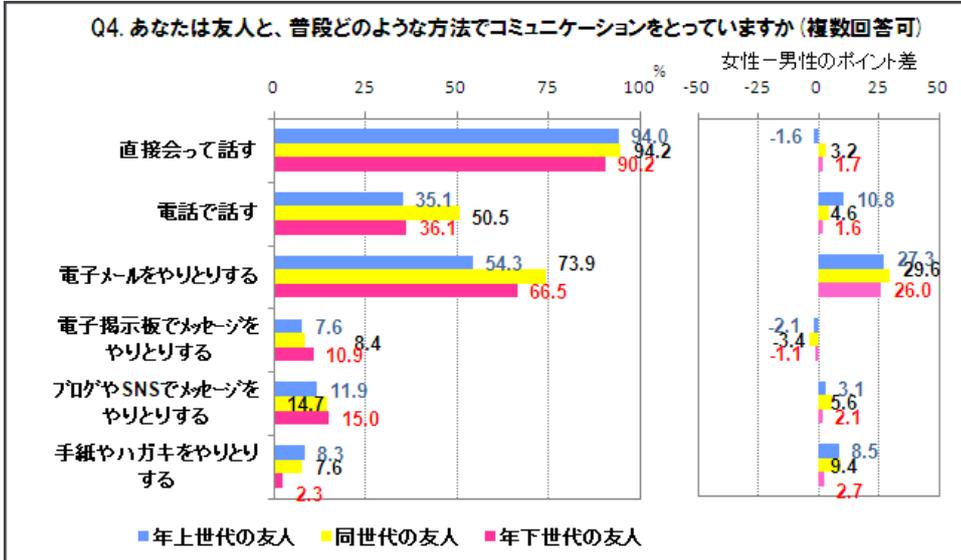
◎女性の50代は年上/同年代/年下、いずれの層も友人がいるという回答が最も多く、多様なコミュニケーションを行っている様子が伺える。



※年上/同年/年下に分けて、各々、友人の有無を質問。いずれも「友人がいる」という回答をINDEX化し、3つのINDEXを積み上げてグラフ化したもの。

### ②友人の年齢別コミュニケーション手段

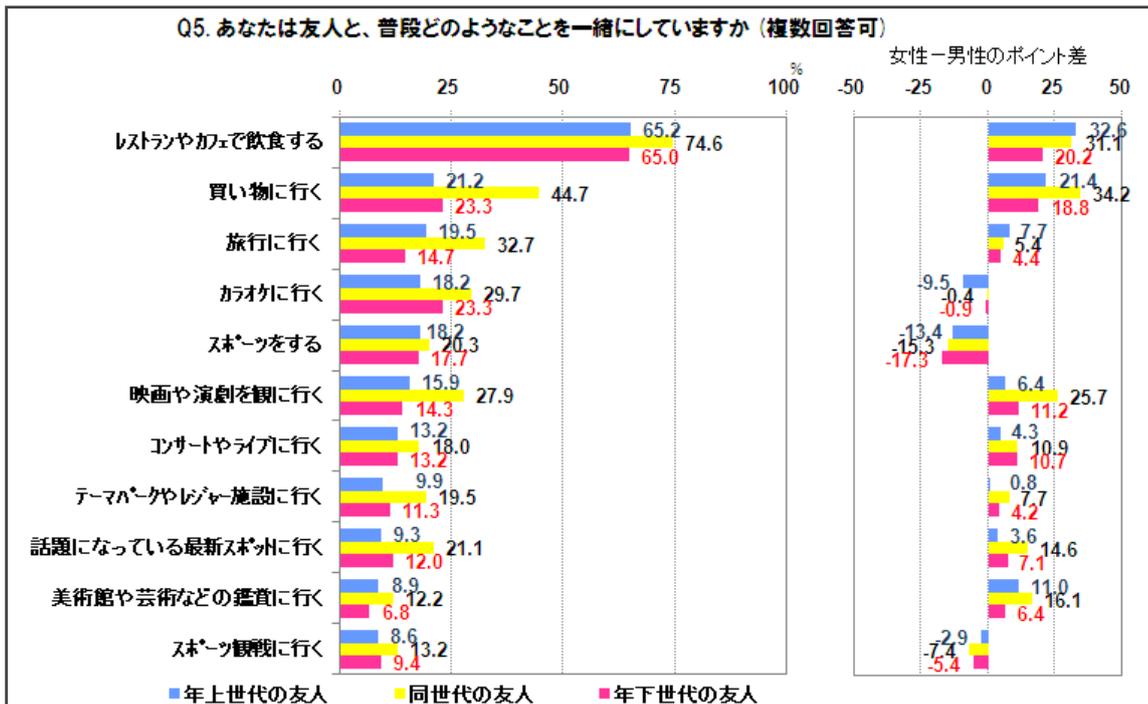
- ◎相手との年齢差に関わらず「直接会って話す」という回答が9割を超えた。次いで「電子メール」が利用されている。
- ◎同年代の友人とは「電子メール」「電話」を利用することも多い。また、年下の友人とは、少数派ながら「電子掲示板」や「ブログ・SNS」などでのコミュニケーションも行われている模様である。
- ◎女性のほうが、利用しているツールが多様であり、とりわけ、「電子メール」を利用したコミュニケーションは男性を大きく引き離していることから、メールコミュニケーションの世界は女性主導といえそうだ。



※いずれも、友人がいるという人における割合 (以下同様)  
 年上世代の友人いる(男性 137/女性 165) 同世代の友人がいる(男性 187/女性 207) 年下世代の友人がいる(男性 122/女性 144)

### ③友人の年齢別コミュニケーション行動

- ◎相手との年齢差に関わらず一緒に行動するのは「飲食」が最も多い。
- 「買い物」「旅行」など様々なコミュニケーションは同年代の友人と行うことが多く、年上/年下とのコミュニケーションは多くの人が、専ら「飲食」中心に行っていると考えられる。
- ◎スポーツ関連の行動を除いて、全般に女性の積極的で多彩なコミュニケーションが目立つ結果となった。



#### ④友人の年齢別コミュニケーション価値

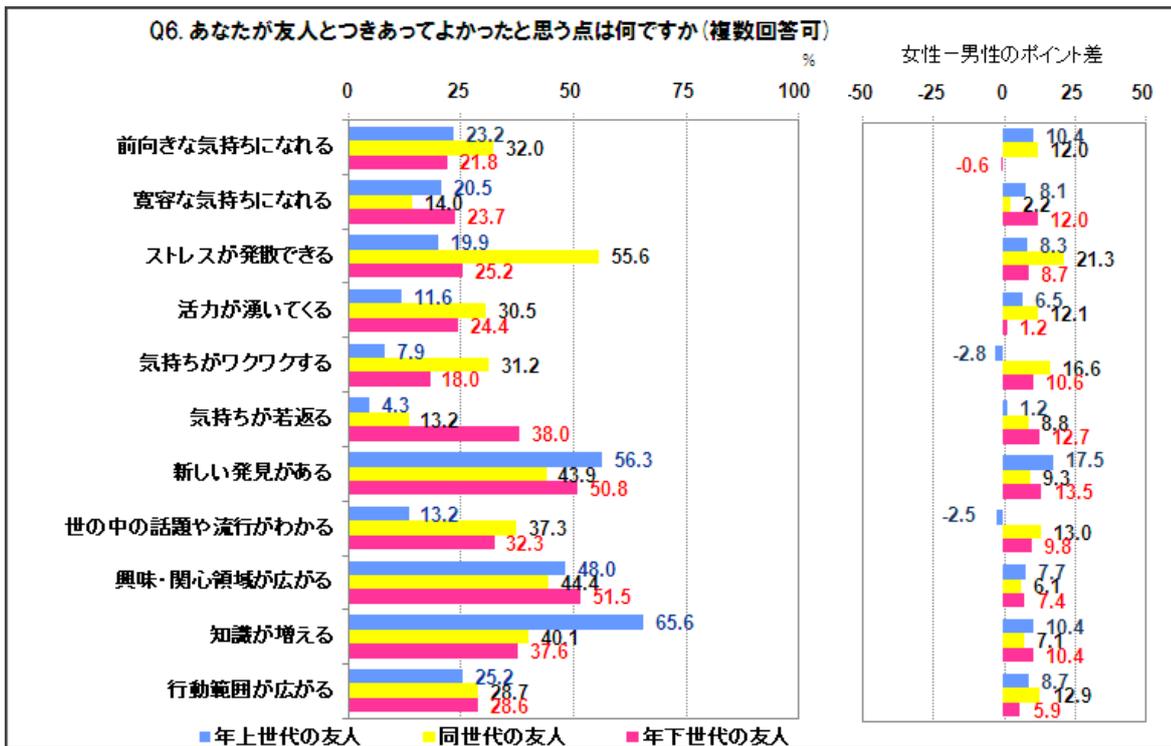
◎年上の友人がいることで「知識が増える」(年上の友人がいる人の 66%)「新しい発見がある」(同 56%) ことを評価する一方、年下の友人とコミュニケーションを図ることは「興味・関心の領域が広がる」(年下の友人がいる人の 52%)「新しい発見がある」(同 51%)、そして「気持ちが若返る」(同 38%)と感じている人が多い。

異なる年齢の友人とのコミュニケーションは、同年代の友人との「ストレス発散」(同年代の友人がいる人の 56%)とは違った価値があると考えられていることがわかる。

同年代の友人とつきあうことで「前向きな気持ち」「活力」「ワクワクする気持ち」になれる一方、異なる年齢の友人との交流では「寛容な気持ちになれる」という回答が多く集まった。

◎女性のほうが全般的にコミュニケーションの価値を高く評価する傾向にある。

年上/年下、同年齢、様々な年齢の友人と、様々なコミュニケーションを行い、かつ、そうしたコミュニケーションをポジティブに捉えていることが伺える結果となった。



#### <調査概要>

■調査手法: インターネット調査

■調査対象: 首都圏在住の 25~59 歳個人男女(但し、20 代の学生を除く)

男性 20 代 54 名 30 代 53 名 40 代 55 名 50 代 50 名 (計 212 名)

女性 20 代 54 名 30 代 55 名 40 代 55 名 50 代 55 名 (計 219 名) 合計 431 人

■調査期間: 2008 年 6 月 3 日~6 日

#### <問合せ先>

(株)NTTアド コミュニケーションプランニング局 (松縄・久米) TEL 03-5745-7623 FAX 03-5745-7673

以上